

令和 5 年度

「運営に関する計画」及び

〔最終評価〕

「学校関係者評価報告書」

大阪市立大正東中学校

令和 5 年 4 月

(令和 5 年 8 月修正)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「全国学力・学習状況調査」「全国運動能力・運動習慣等調査」の結果等から、学力については、基礎基本の定着、思考力・表現力の育成、自主学習への取り組みに課題がみられる。道徳性・社会性については、防災意識や人権感覚の育成に一定の成果が見られるが、規範意識や自尊感情には課題が残る。健康・体力の保持増進についても、朝食の喫食率や薬物乱用に対する問題意識の育成に成果が見られるが、体力の向上や、健康な生活習慣に対する意識には課題が残る。

開かれた学校づくりの一つの柱として活用している、学校ホームページの閲覧数は市内でも上位になっているが、学校行事や部活動にかかる記事をよりきめ細かく掲載することによって、閲覧数の増加を図りたい。

校長経営戦略支援予算により I C T 教育環境の整備が昨年度かなり成果を上げ、I C T 教育の取り組みが充実しているが、今年度は整備をより進め、あらゆる教育機会での I C T 機材の活用ができる環境を作る。また、津波や高潮の影響を受けやすい大正区の地域性を鑑み、防災教育を重視し、さらには地域や近隣の保育所との合同訓練を企画していく。

これを踏まえ、令和 5 年度は特に「挨拶・掃除・部活動」を軸に、生徒に規則正しい生活習慣を身につけさせていきたい。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○令和 7 年度「学校に行くのは楽しいと思いますか」の学校アンケートに対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 82 % 以上にする。

○令和 7 年度「自分には、良いところがありますか」の学校アンケートに対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 77 % 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和 7 年度「全国学力・学習状況調査の平均正答率の対全国比（国語・数学ともに）」を 1.00 以上にする。

○令和 7 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比（男子・女子ともに）」を 1.01 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和 7 年度「授業日において学習者用端末を毎日使用した学校の割合（ただし、学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く）」を 100% にする。

○「働き方改革」を進め、令和 7 年度「教員の勤務時間の上限に関する基準（※基準 1 時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 0 、かつ、 1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下」・※基準 2 1 年間の時間外勤務時間が 720 時間以下、時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 6 以下、時間外勤務時間が 100 時間を超える月数 0 、直近 2 ~ 6 か月の時間外勤務時間の平均が 80 時間を超える月数 0 、を全て満たす。）を満たす教職員の割合」について、基準 1 は 49.7% 以上・基準 2 は 75.4% 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に對して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を83%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
(不登校状態であっても、総合的な判断により不登校の状態が改善された人数も含める。)

学校園の年度目標

- 区役所担当者や消防署と連携して、南海トラフ地震等の大規模災害に備えて、学校施設を避難所として整備するとともに、地域を巻き込んだ防災研修をなお一層充実した形で実践する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な(思う)と回答をする生徒の割合を40%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を60%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に對して、最も肯定的な(好き)と回答をする生徒の割合を52%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 学習者用端末を活用する日を週2回以上設定する。（家庭学習も含む）
- 代休日の取得を促したり、育児・介護に係る諸制度を積極的に推進したりすることで、教職員が働きやすい環境を整え、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を32%以上にする。（※基準1 時間外勤務時間が45時間が超える月数0、かつ、1年間の時間外勤務時間が360時間以下））

3 本年度の自己評価結果の総括

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を83%以上にする。

【70.9%と目標を達成することができなかつた。】

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

【令和4年度58人(在籍496人)→令和5年度(2学期末段階) : 54人(在籍510人)と減少している。】

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

(不登校状態であっても、総合的な判断により不登校の状態が改善された人数も含める。)

【令和4年度は9名であったが、今年度、関係機関に12名の生徒が関わっていただいている。】

○区役所担当者や消防署と連携して、南海トラフ地震等の大規模災害に備えて、学校施設を避難所として整備するとともに、地域を巻き込んだ防災研修をなお一層充実した形で実践する。

【消防署と連携した防災学習・研修を行うことができた。】

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な(思う)と回答をする生徒の割合を40%以上にする。

【校内アンケート「授業などで学級の友達との話し合いを通じて、自分の考えを深めたり広めたりする機会がある。」での全学年の最も肯定的な回答が52%と目標値を超えるものであった。】

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント以上向上させる。(0.01ポイント=1%)

【3年生は国語に関しては前年度より0.04ポイント低下、数学に関しては0.06ポイント低下となり、目標を達成することができなかつた。】

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を60%以上にする。

【結果は40.2%と目標値以下であり、昨年度(40.7%)より0.5%低下した。】

○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な(好き)と回答をする生徒の割合を52%以上にする。

【全体では64.1%(男子:79.2%・女子:48.8%)と目標値を超えることができなかつた。】

○学習者用端末を活用する日を週2回以上設定する。(家庭学習も含む)

【今年度から、登校後に「心の天気」の導入をはじめた。定着しつつあるもの、定期テストの最終日に端末使用がない日が発生しているため、定期テスト時であっても「心の天気」の入力をするよう、声かけをしていく。】

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を32%以上にする。(※基準1 時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ、1年間の時間外勤務時間が360時間以下)

【基準1を満たす教員の割合は41.86%(令和5年12月時点)と目標値以上であった】

(様式 2)

大阪市立大正東中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を83%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>（不登校状態であっても、総合的な判断により不登校の状態が改善された人数も含める。）</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○区役所担当者や消防署と連携して、南海トラフ地震等の大規模災害に備えて、学校施設を避難所として整備するとともに、地域を巻き込んだ防災研修をなお一層充実した形で実践する。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめの未解決件数を 0 にする。	A
指標 2 学期末段階において、いじめの未解決件数を 0 にする。	
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 不登校生徒の人数を昨年度末よりも増加させない。	A
指標 2 学期末段階において、不登校生徒の人数を昨年度末の人数より下回る。	
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 道徳の時間を要として、各教科や総合的な学習の時間など教育活動全体を通じて、自分自身をかけがえのない存在とする自己肯定感情を育成する取組みを実践する。 (道徳教育推進教師)	B
指標 「校内調査」の結果で、『自分にはよいところがある。』の項目について、肯定的な回答する答える生徒の割合を 70 %以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①いじめ問題が発生した時、いじめ対策委員会を開催し、迅速な対応を取ることができた。 2 学期末段階での認知件数 26 件に対して、未解決件数 0 件であった。
②1～2 週間に 1～2 度、家庭訪問に行き、不登校生対応を行った。引き続き、不登校生徒の人数を昨年度末よりも増加させないように努めていく。今年度2学期末段階ではあるものの現在の不登校生徒数は54人で、令和4年度の不登校生徒数の57人を下回った。
③道徳に関して年間計画通り実施し、また系統立てた取り組みも推進した。
次年度への改善点

- ①年度当初に全教職員で対策委員会を実施し、いじめについての共通理解を図りたい。
 ②年度当初に全教職員で対策委員会を実施し、不登校についての共通理解を図りたい
 ③「自己肯定感情」をさらに高めていけるような取り組みや道徳教材を精選して実践する。

(様式 2)

大阪市立大正東中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な(思う)と回答をする生徒の割合を40%以上にする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。</p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を60%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な(好き)と回答をする生徒の割合を52%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 5教科（英数理社）の学力を向上させる。 指標 3年生の中学校チャレンジテストにおける平均点を、各教科ともに大阪府平均マイナス5ポイント以内にする。	B
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 全教員が「主体的・対話的で深い学び」の要素を取り入れた授業スタイルを模索し続ける。 指標 全教員が年間1回以上「主体的・対話的で深い学び」の要素を取り入れた研究授業（公開授業）を行う。	A
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 関連する教科や部活動、特別活動や学校行事などを通じて、体力の向上を目指した取り組みを、実施計画に従って取り組む。（保健体育科主任） 指標 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、4つ以上の項目で全国平均を上回らせる。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① (国語) 習熟度別授業を行ったり、授業内で小テストを行ったりしたことで、生徒の基本的な学力の定着には成果がみられた。一方、記述問題では無回答は減ったものの、正答率は低い。

- (数学) 基本を繰り返し練習することで計算力の定着には成果がみられた。一方、特に「データの活用」分野においては既習の知識と比べると正答率の低さが目立った。
- (英語) 習熟度別授業を行ったり、基礎問題を繰り返し練習したりすることで、基本的な学力の定着には成果がみられた。長文読解や英作文では正答率の低さが目立った。
- (理科) 実験やグループワークを通して「主体的・対話的で深い学び」の要素を取り入れたが、単元によって進度が異なり、生徒の理解の定着に影響が出てた。
- (社会) 小テストの実施など、既習内容の復習を授業内で行うことで、基礎的な内容の定着について、一定の成果が見られた。

- ② 年度当初の計画通り全6回「主体的・対話的で深い学び」をテーマにした研究授業。それに伴った研究協議を行うことができた。また、今年度は指導主事の助言も頂きながら「主体的・対話的で深い学び」をテーマとした教員向け研修を複数回行うことができた。
- ③ 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果では、男子は、握力・20mシャトルラン・50m走・ハンドボール投げの4項目において全国平均を上回った。女子は、50m走では全国平均と同じで、その他の項目では全国平均をすべて上回っている。教科や部活動・行事・昼休みのボール貸出など、様々な教育活動を通して、体力向上を目指して取り組んだ結果であり、来年度も継続して取り組んでいきたい。

次年度への改善点

- ①
- (国語) 習熟度別授業、授業内での小テストは継続しつつ、授業で取り上げる題材や、学習内容をさらに吟味する必要がある。
- (英語) 習熟度少人数授業を継続しつつ、基礎学力が身につくよう指導していく。
- (社会) 基礎的な内容の定着を目的として、小テストを継続して実施していく。授業内のグループワークを実施したり、定期テストでの出題方法を工夫したりしながら、思考する力の向上も図りたい。
- (理科) 習熟度別授業や小テストなどをより多く取り入れ、まずは生徒が基本的な内容をしっかりと理解できるように努め、グループワークなどは引き続き継続していきたい。
- (数学) 基礎計算力の向上に向けての繰り返し練習は継続しつつ、既習の知識を活用できるようになるための読解力を取り入れたカリキュラムを計画していく。
- ② 研修内容をより吟味し、教職員の意識を更に高水準に保つ必要がある。
- ③ 運動量がしっかりと確保できるような環境作りを目指すとともに、現状の取り組みは今後も続けていきたい。

(様式 2)

大阪市立大正東中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○学習者用端末を活用する日を週 2 回以上設定する。（家庭学習も含む）</p> <p>○代休日の取得を促したり、育児・介護に係る諸制度を積極的に推進したりすることで、教職員が働きやすい環境を整え、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 32% 以上にする。（※基準 1 時間外勤務時間が 45 時間が超える月数 0、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下）</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>全教科で、創意工夫をして、学習者用端末を使用する授業展開を模索する。</p> <p style="text-align: right;">（GIGA スクール委員会 委員長）</p>	A
<p>指標 （家庭学習も含めて）生徒自身が学習者用端末を週 2 回以上使用する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教職員の「働き方改革」を強く推進する。</p> <p style="text-align: right;">（教務主任）</p>	A
<p>指標 （授業時数確保と両立させつつ）月 1 回以上のペース（年 1 2 回以上）で教職員の「リフレッシュデー」を設定する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①こころの天気を朝学活で入力させるなどの取り組みや、授業での活用により、使用頻度は増加している。</p> <p>②指標通り月 1 回以上「リフレッシュデー」を設定することができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>①活用することを目的とするのではなく、生徒の資質・能力が育成できるよう、各教科で使い方や教育効果を研究することが必要である。また、使用頻度が増加するにつれ、故障する端末の数も増加しているため、扱い方についても指導や対策が必要と思われる。</p> <p>②次年度も継続して月 1 回以上「リフレッシュデー」を設定して、教職員の働き方改革を推進する。＊時差勤務についても推進していく。</p>	

令和5年度 学校関係者評価報告書

大阪市立大正東中学校 学校協議会

1 総括についての評価

学校協議会にて「運営の計画〔最終評価〕」「中学校のあゆみ」をもとに、本校の成果、課題について、ご理解をいただいた。また、その課題に対して、本校が次年度以降、どのように方策をたてるのかといったところまで共有することができた。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。

【70.9%と目標を達成することができなかった。】

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

【令和4年度58人（在籍496人）→令和5年度（2学期末段階）：54人（在籍510人）と減少している。】

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

（不登校状態であっても、総合的な判断により不登校の状態が改善された人数も含める。）

【令和4年度は9名であったが、今年度、関係機関に12名の生徒が関わっていただいている。】

○区役所担当者や消防署と連携して、南海トラフ地震等の大規模災害に備えて、学校施設を避難所として整備するとともに、地域を巻き込んだ防災研修をなお一層充実した形で実践する。

【消防署と連携した防災学習・研修を行うことができた。】

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な（思う）と回答をする生徒の割合を40%以上にする。

【校内アンケート「授業などで学級の友達との話し合いを通じて、自分の考えを深めたり広めたりする機会がある。」での全学年の最も肯定的な回答が52%と目標値を超えるものであった。】

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント以上向上させる。（0.01ポイント=1%）

【3年生は国語に関しては前年度より0.04ポイント低下、数学に関しては0.06ポイント低下となり、目標を達成することができなかった。】

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を60%以上にする。

【結果は40.2%と目標値以下であり、昨年度（40.7%）より0.5%低下した。】

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な（好き）と回答をする生徒の割合を52%以上にする。

【全体では64.1%（男子：79.2%・女子：48.8%）と目標値を超えることができなかった。】

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

○学習者用端末を活用する日を週2回以上設定する。（家庭学習も含む）

【今年度から、登校後に「心の天気」の導入をはじめた。定着しつつあるもの、定期テストの最終日に端末使用がない日が発生しているため、定期テスト時であっても「心の天気」の入力をするよう、声かけをしていく。】

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を32%以上にする。（※基準1 時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ、1年間の時間外勤務時間が360時間以下）

【基準1を満たす教員の割合は41.86%（令和5年12月時点）と目標値以上であった】

3 今後の学校園の運営についての意見

○「主体的・対話的な深い学び」のさらなる推進はもちろんのこと、学力に課題を抱えている生徒への継続的なサポートをしてほしい。

○「不登校の生徒への今後のアプローチ」も、今まで通りきめ細かくおこなって欲しい。

○教員の働き方改革で保護者との時間が少なくならないように配慮してほしい。